



知事室に小川洋知事を表敬訪問しました。



アレルギー対策等中学生との意見交換を行いました。



中国領事館で開催された交流会でエプロン姿を披露



九州電力総連の新春賀詞交歓会で挨拶を行いました。



非行少年の就労支援を行う北九州市の野口石油を訪問



政治を身近に感じて貰うための若い世代との意見交換会



春闘勝利を願って(毎日新聞掲載)



今期インターン生と政策提言について打ち合わせ



6次産業化を促める宮崎県島島市の黒豚の養豚場を視察



在福岡アメリカ首席総領事との交流会で締め博多手一本を行う。



県議会スポーツ議員連盟の事務局長としてイベントに参加



ミャンマーの国会議事堂を訪問、アウンサン・スーチーさんの姿もありました。

地域の声を県政に活かす!

福岡県議会議員(福岡市城南区)

もりやまさと 守谷正人

MORIYA REPORT

県政報告 2014.春 Vol.20



樋井川の河川改修のいま! ~安全で県民から親しまれる樋井川へ~

平成21年7月の北部九州豪雨により福岡都市圏に甚大な被害が発生しました。そのため、樋井川では平成22年度より緊急的かつ集中的な河川整備をおこなっています。概ね5年間で、ふれあい橋から駄ヶ原川合流点(樋井川3丁目)までの工事を完成させるために進捗を図っています。本年度出水期(河川が増水する期間)後は仲良橋から上流を整備して参ります。

平成25年9月~26年6月 田島橋上流から仲良橋付近  
平成26年出水期以降 仲良橋付近から駄ヶ原川合流点



2月定例県議会代表質問

2月議会は2月26日から3月28日迄開催され、国の経済対策を活用する2月補正予算と新年度予算と合わせた「14か月予算」を策定しました。我が会も平成26年度の県政運営と予算編成に係る課題、税制改革プラン等について知事や教育長、警察本部長に質問しました。また、3月11日には「東日本大震災」の被災者の皆さんに対して議場で黙祷を行いました。

- ・知事の基本姿勢 (県政運営と予算編成、国の事務権限の自治体移譲等)
- ・緊急時迅速放射能影響予想システム(SPEEDI)の情報開示について
- ・建築物の耐震化促進について
- ・福岡空港と北九州空港の将来構想について
- ・農業の6次産業化推進について
- ・教育問題について(教育行政と予算編成、学びの共同体など)
- ・暴力団壊滅対策について



PROFILE もりやまさと  
福岡県議会議員  
昭和40年 6月21日/福岡市生まれ  
昭和59年 3月/西南学院高等専修学校卒業  
平成 元年 3月/西南学院大学商学部商学科卒業  
平成 元年 4月/近畿日本ツーリスト(株)入社  
平成 8年10月/衆議院議員秘書(国会内)  
平成16年12月/(株)九電ビジネスフロント入社

新社会推進・商工委員会委員  
国際交流推進対策調査特別委員会委員  
福岡県日米友好議員連盟副会長  
福岡県都市計画審議会委員  
民主党福岡県第2区総支部幹事  
九州電力総連組織内議員  
西南学院高等学校同窓会評議員  
福岡県スポーツ議員連盟事務局長

〒814-0104 福岡市城南区別府6-2-10  
TEL 092-851-3679 FAX 092-851-3670  
e-mail: macmac0621\_1965@mail.goo.ne.jp  
ホームページ http://moriya-masato.info/  
facebook 更新中



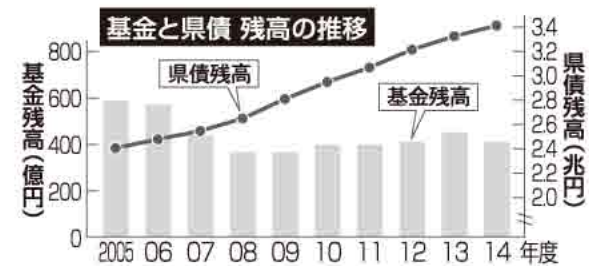
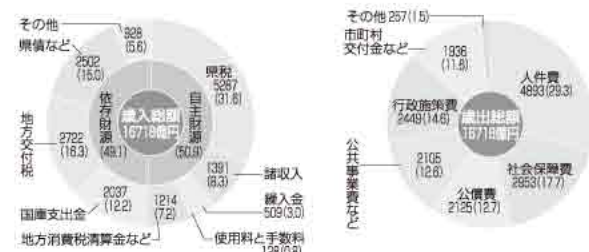


# 平成26年度一般会計予算 1兆6718億円～前年度比401億円、2.5%増～

平成26年度一般会計予算は前年度当初比401億円増の1兆6718億円となり、規模は4年連続で最大を更新しました。4月の消費税増税に伴う県内景気の腰折れ回避や地方経済や中小企業支援など景気と雇用の回復や経済対策に力を置きました(歳入では県税は前年度比7.6%増の5287億円、歳出では公共事業費は前年度比1.2%増の2072億円)

一方、借金にあたる県債の残高は予算規模の2倍を超す3兆4097億円(国が借金を肩代わりする臨時財政対策債を含む)で県民一人当たり67万円となっています。県は平成26年度～28年度に実施する財政改革推進プランにより、平成28年度には財源不足を解消し、400億円の基金確保と臨時債を除いた県債残高を平成24年度比で約550億円減額させるとしています。

## 2014年度 福岡県一般会計当初予算



## 一般質問

### 本県の空き家対策について

空き家を放置すると危険や不安といつも隣り合せとなりま。本県でも約33万戸存在し、全住宅戸数の13.7%となります。その内、適切に管理されていない空き家は約10万戸となり、今後も増加する予定です。知事からは市町村向けの「空き家対策マニュアル」の策定を行うとの発言がありました。また16市町で設置している「空き家バンク」や「住まいの健康診断」の普及、狭隘道路(4m未満の道路)に面した空き家が4割を占める事から「住宅市街地総合整備事業」や「狭隘道路整備事業」の活用が出来るように努める等の答弁がありました。

### がん対策の推進について

「がん」は2人に1人がかかる国民病で、本県では平成22年にがんで亡くなった方は14,769人で約3人に1人が亡くなっています。また、がん検診受診率では胃・肺・大腸・乳・子宮の各がん検診で全国平均を下回っているのが現状です。

○知事からは「総合検診の推進や企業と連携した県民への受診奨励等の取り組みをしっかりと進めて、若いうちにがんを理解する事は予防のための正しい生活習慣を身に付け、将来におけるがん検診の受診につながり大切な事である」との答弁がありました。

○教育長から「がんやがん患者に理解を深める教育は現在不十分な状況であり、学校における健康教育の中でもがん教育は正しい理解を進める事から国民の健康に関する基礎的な教養として必要不可欠。今後はがん教育の推進に努めて参る」との答弁がありました。

### 老朽空き家対策紹介

市町村向け 県がマニュアル作成へ

県は、老朽化と空き家問題が深刻化する中、空き家対策として、老朽化と空き家問題の解決策として、市町村向けに「空き家対策マニュアル」を作成し、積極的に対応策の実施を働きかけていく方針を明らかにした。今月中旬に完成させ、市町村の担当者を集めた説明会を開いて周知する。7日の県議会一般質問で、民主党・県政クラブの守谷正人議員の質問に小川知事が答えた。

県では、不動産情報などを提供する「空き家バンク」の設置を各市町村に勧めているが、実際に設置したものは16市町にとどまる。また、建て替えの促進などについても、空き家の約4割が過剰な狭い道路に面している

現在、約33万戸を数え、全戸数の13.7%を占めている。うち約10万戸が居住者が長期不在だったり、放置されたりしており、老朽化による倒壊など懸念されている。

県では、不動産情報などを提供する「空き家バンク」の設置を各市町村に勧めているが、実際に設置したものは16市町にとどまる。また、建て替えの促進などについても、空き家の約4割が過剰な狭い道路に面している

小川知事は答弁で、「空き家対策は市町村の取り組みが不可欠。情報を進められるよう、情報提供や助言に努める」と語った。

(3月9日の読売新聞に質問が掲載されました。)



### がん検診受診率(%)の全国との比較

	胃	肺	大腸	乳	子宮(頸部)
全国	9.6	17.2	16.8	19.0	23.9
福岡県	7.0	7.8	8.6	18.2	24.3

地域保健・健康増進事業報告(厚生労働省大臣官房統計情報)

## 学力向上「学びの共同体」

我が会派は、宮崎県の綾中学校と、沖縄県国頭村の全小・中学校で実施されている「学びの共同体」の取り組みを視察しました。学びの共同体とはグループで考え、話し合う授業を通じて、先生も生徒もともに学び合う取り組みです。教室の机を「コ」の字形等に並べ、グループで考え、みんなで答えを出していく授業です。

視察先の学校長は理由として「学びの共同体の実践で子ども同士が学び合うこと、つまり子どもの力を借りることが、一方的に先生が教えるよりも、子どもの力を引き出すには有効との確信がある。」と語りました。

子ども同士が、お互いに教え合い、支え合うことで不登校やいじめが解消され、学力格差がなくなり、結果として学力が向上しているとのこと。県内では小学校で15校、中学校で7校がこの学びの共同体の実践校です。



## ロンドンパラリンピック金メダリスト (福岡県スポーツ議員連盟の活動)

2012年ロンドンパラリンピックゴールボール金メダリストの小宮正江さんを講師に招いて県議会で「自分の可能性を信じて」と題して講演をして頂きました。

小宮さんは小学校の時網膜色素変性症を発症し、就職後、視力低下により退職、その後マッサージや点字を学び、ゴールボールに出会いました。福岡県民スポーツ栄誉賞受賞、地域社会への貢献活動として小学校等に出向きスポーツ体験教室等も行っています。

私もスポーツ議連の事務局長として半年前からこの取り組みを準備し、当日は司会役としてお世話させて頂きました。



(小宮正江さんに花束を贈呈しました)

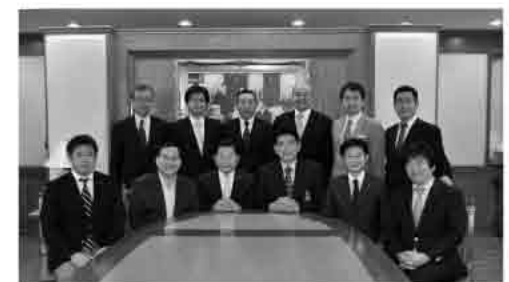
## バンコク都に中古消防自動車、9台を寄贈! (福岡県タイ友好議員連盟の活動)

福岡県内で更新のため廃車される消防自動車をバンコク都に贈り現地で有効活用していく取り組みを行っています。現地では欧米型の大型消防車が多いため路地等に入れない事や元来消防自動車やポンプ車の配置が少ない事もあるため大火事になり易い環境にあります。

3月末にはバンコク都議会訪問団の来福と併せて5市町消防本部から提供頂きましたポンプ車等9台の寄贈式及び放水式を宗像の県消防学校で行いました。

(遠賀郡消防本部1台、太宰府消防団1台、那珂川町消防団4台、古賀市消防団1台、川崎町消防団2台)

また、今年1月バンコク都を訪問した際には都議会の中庭に日本の桜を植樹し、今後の友好関係の証しとしました。いつの日か日本の桜の花がタイ国で満開になり、両国の交流が更に深まる事を願っています。



(歴代バンコク都議会の議長と共に)